

②⑤ 連凧（れんだこ）作り

1 子どもたちに伝えたいこと

- ・身近なもので、自分で遊び道具を作り楽しむ経験をする。
- ・凧（たこ）が風に乗ってあがる仕組みを知る。

2 実施時期：冬季（12月～2月）、お正月の遊びの1つ

3 実施場所：作製は室内、あげる場所は校庭や近くの広場・河原

4 対象学年：全学年

5 関連教科：図工、理科、生活科、総合

6 時数：2時限

7 事前準備（児童1人分＝連凧2つつ分）

- ・河川・公園管理者への申請（必要な場合）
- ・材料の準備：竹ひご（ $\phi 1.8\text{mm} \times 36\text{cm}$ を4本）、凧連結用のたこ糸（1mを2本）、揚げ糸用のたこ糸（約10mを1本、持ち手（厚紙）に巻いておく）、凧のしっぽ（新聞紙、約 $4\text{cm} \times 1\text{m}$ を2本）、障子紙（ $40\text{cm} \times 35\text{cm}$ 程度を2枚）
- ・凧の形に切った厚い型紙の作成（1～2班に1枚）

8 当日

(1) 準備する材料や道具（事前準備のもの以外に）

学校：型紙、はさみ、セロテープ（18mm幅以上が良い）、鉛筆または名前ペン

どんぐりクラブ：材料、ポスカ、連凧の作り方の図（パネル）

(2) 授業の流れ

① あいさつ

② 作り方の説明・作製時の注意事項

- ・連凧のサンプルを提示して、作り方を図と材料で説明する

③ 作業

- ・障子紙に型紙をあて、鉛筆などで型を取り、はさみでタコを切り抜く。
- ・凧の表面（ツルツルした面）に、文字を書いたり絵を描く。
- ・凧の横方向に竹ひごをあて、はみだした部分をはさみで切り取る。
- ・凧の裏面に、凧の縦横に合うように長短の竹ひごを十文字に置き、凧の四隅で竹ひごの端を包み込むようにセロテープで固定する。
- ・竹ひごの交わった部分を、1mの凧連結用のたこ糸の中ほどを使って固結びでしぼる（結び目が1mのたこ糸の真ん中になるように注意する）。
- ・凧の真ん中に穴をあけ、凧連結用のたこ糸の片方を表面に通す。
- ・凧の補強のため、竹ひごの交わった部分と端の中間あたりを、セロテープでタコに張り付ける。
- ・凧の表面下側のV字部分に新聞紙のしっぽをテープで止めて完成。

～ここまで、凧2つつ分作業する～

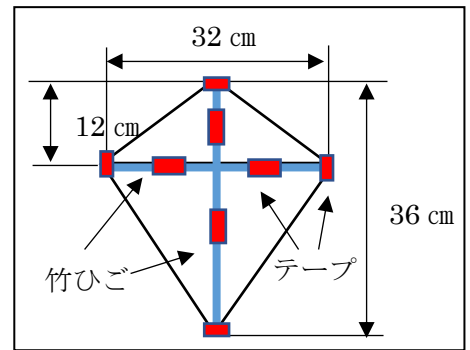
- ・出来上がった2つの凧をそれぞれの凧連結用たこ糸でつなぎ、手前の凧には持ち手に巻いた揚げ糸をつなぐ。いずれも片花結びでつなぐと、タコを追加するときにはほつきやすい。

④ 凧あげ競争（残りの時間）

⑤ 終わりのあいさつ

9 備考

凧が良くあがるようにするには、どのような工夫をしたら良いか考えてみる。



<凧の寸法・構造>



<あげているところ>